

## 木簡字典“意味検索”機能追加のお知らせ

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、広く皆さまにご利用頂いております、木簡画像データベース「木簡字典」に、「意味検索」機能を追加し、公開することになりました。御取材方どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## 記

日時：2016年2月10日（水）午後1時頃より公開

内容：「木簡字典」に「意味検索」機能を追加

(1) 検索方法—意味によって分類したリストから選択して検索

(2) 分類階層；主に3階層（右図分類例参照→）

（大分類：40、中分類：80、小分類79種類）

例；物品—食品—水産物（全てに3階層があるわけではありません）

(3) データ数 「木簡字典」に搭載されている木簡のうち

約1200点の木簡（2016年2月現在）

➤これによって以下のような検索が可能になります。

例；食品に関する木簡を探したい！→リスト“食品”を選択

検索結果→魚や米、瓜など、食品に関する木簡のいずれも検出

さらに、しぼり込みも可能→“水産物”を選択

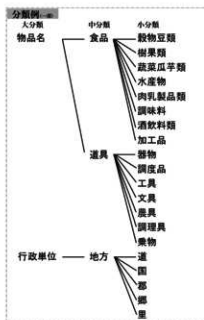
⇒魚や海藻などに関する木簡にしぼり込み

※検索後の詳細画面においては、

本文の分類結果を表示しています（既公開機能）

URL：<http://jiten.nabunken.go.jp/index.html>「木簡字典」（検索・表示例は別紙参照）

※奈良文化財研究所ホームページ“データベース一覧”にもリンクがございます。



## ※期待される効果

- ・より身近な語句・概念から、興味のあるテーマにあわせて、気軽に検索することが可能になった。
- ・古代の人びとのモノとの関わりなど、当時の生活を知る手がかりが得やすくなる。例えば、身近な地域の特産品を調べて、地域おこしのヒントにしてみようなど、活用範囲の拡大が期待できる。
- ・木簡の表記は多様であるため（例；サメ；鮫・佐米、アワビー・鮑・鯨など）記載された文字への知識がないと、その用例の全てにたどりつくことができなかったが、これを解消できる。  
⇒記載文字を知らないと使えないDBから、知らなくても意味内容から使えるDBへ

## ※開発の経緯と今後の研究展開

- ・これまで大きな分類（木簡の形や記載内容）くらいしか記録できていなかったため、これをより詳細に分類し、蓄積することで解説の支援とすることをめざした。
- ・さらに、分類した語句の画像上での位置についてデータを蓄積。木簡上に同類の語句がどの位置に書かれることが多いのかなど、記載様式の傾向分析が可能に。今後の研究の深化が期待できる。

本開発は科学研究費補助金基盤研究(S)「木簡など出土文字資料の資源化のための機能的情報集約と知の結集」(2013年度～2017年度(予定)、研究代表者：渡辺晃宏)、および若手研究(B)「G T—M a p 等時空間解析システムを利用した木簡等出土文字資料分析の基礎的研究」(2011年度～2013年度、研究代表者：馬場基)による研究成果である。

